

## 結 果 の 概 要

### 1 出生数は減少

出生数は103万7231人で、前年の105万806人より1万3575人減少し、出生率（人口千対）は8.2で前年の8.3を下回った。合計特殊出生率は1.41で前年の1.39を上回った。（第1表）

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15～34歳の各階級及び50歳以上では前年より減少したが、14歳以下及び35～49歳の各階級では増加した（第4表（1））。

合計特殊出生率の内訳を年齢（5歳階級）別にみると、15～29歳の各階級では前年より低下したが、30～49歳の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第5表（1））

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位についても前年より減少した。合計特殊出生率の内訳では第1子は前年を下回ったが、第2子及び第3子以上は前年を上回った。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は35～39歳では第1子及び第2子が前年より増加し、40～49歳の各階級については、いずれの出生順位についても前年より増加した。合計特殊出生率の内訳は、30～44歳の各階級でいずれの出生順位についても前年を上回った。（第4表（3）、第5表（3））

### 2 死亡数は増加

死亡数は125万6359人で、前年の125万3066人より3293人増加し、死亡率（人口千対）は10.0で前年の9.9を上回った（第1表）。

悪性新生物の死亡数は36万963人で、死亡率（人口10万対）は286.6であり、死亡総数の28.7%を占めて死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患、第3位は肺炎である。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男5.2、女2.7で前年より男は0.3、女は0.2それぞれ下回った（第1表）。

### 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△21万9128人で、前年の△20万2260人より1万6868人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.7で前年の△1.6を下回り、数・率ともに6年連続でマイナスとなった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

### 4 死産数は減少

死産数は2万4800胎で、前年の2万5751胎より951胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は23.4で、前年の23.9を下回った（第1表）。

### 5 婚姻件数は増加

婚姻件数は66万8869組で、前年の66万1895組より6974組増加し、婚姻率（人口千対）は5.3で前年の5.2を上回った（第1表）。

### 6 離婚件数は減少

離婚件数は23万5406組で、前年の23万5719組より313組減少し、離婚率（人口千対）は1.87で前年と同率となった（第1表）。